

平成 31 年度

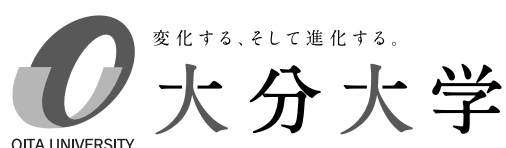
大分大学大学院教育学研究科

学校教育専攻（修士課程）

教職開発専攻（専門職学位課程）
〔教職大学院〕

学 生 募 集 要 項

平成 30 年 5 月



目 次

- ◎ 大分大学大学院教育学研究科入学者受入れの方針（AP：アドミッション・ポリシー） 1
- ◎ 大分大学大学院教育学研究科学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー） …… 3

教育学研究科 学校教育専攻（修士課程）

| | | |
|-----|--------------|---|
| I | 入試日程 | 4 |
| II | 募集人員 | 4 |
| III | 出願資格 | 4 |
| IV | 出願手続 | 5 |
| V | 出願書類等 | 6 |
| VI | 出願上の注意事項 | 7 |
| VII | 入学者選抜方法等 | 7 |
| 1 | 論述試験及び口述試験 | 7 |
| 2 | 論述試験科目及び口述試験 | 8 |
| | 一般志願者の選抜方法 | 8 |
| | 現職教員等の選抜方法 | 9 |
| 3 | 検査の配点 | 9 |

教育学研究科 教職開発専攻（専門職学位課程）〔教職大学院〕

| | | |
|-----|--------------|----|
| I | 入試日程 | 10 |
| II | 募集人員 | 10 |
| III | 出願資格 | 10 |
| IV | 出願手続 | 11 |
| V | 出願書類等 | 12 |
| VI | 出願上の注意事項 | 13 |
| VII | 入学者選抜方法等 | 13 |
| 1 | 論述試験及び口述試験 | 13 |
| 2 | 論述試験科目及び口述試験 | 14 |
| | 一般志願者の選抜方法 | 14 |
| | 現職教員等の選抜方法 | 14 |
| 3 | 検査の配点 | 14 |

共通事項

| | | |
|-----|-------------------|----|
| I | 障がいのある者等の事前相談について | 15 |
| II | 合格者の発表 | 15 |
| III | 入学手続 | 15 |
| IV | 入学料及び授業料 | 15 |
| V | 長期履修制度について | 16 |
| VI | 教育方法の特例措置について | 16 |
| ◎ | 検査場案内図 | 17 |

教育学研究科案内

| | | |
|-----|------------------------|----|
| I | 概 要 | 18 |
| II | 修士論文及び学位（修士課程） | 19 |
| III | 教育実践研究報告書及び学位（専門職学位課程） | 19 |
| IV | 免許・資格 | 20 |
| V | 研究科の履修基準及び授業科目 | 21 |

大分大学大学院教育学研究科入学者受入れの方針 (A P : アドミッション・ポリシー)

基本理念

〔学校教育専攻〕

学部教育で修得した学校教育の基本的知識及び学校教育現場における教師としての経験や知見を土台に、更に学校教育における理論と実践に関する学術分野の総合的な教育・研究を行うことにより、高い研究能力と教育的指導力を備え、実践力豊かな人材を養成するとともに、地域教育の発展に寄与することです。

〔教職開発専攻〕

学部教育で修得した学校教育の基本的知識、または、学校教育現場における教師としての経験や知見を土台に、大学院における理論の学習と学校における実践の経験の往還を通じた高度の実践的指導力を修得させることによって、新しい学校づくりにおいて指導的役割を果たし得るスクールリーダー（管理職等）の養成と、新しい学びや学校現場での今日的教育課題に対応し得る教員の養成をするとともに、地域教育の発展に寄与することです。

教育・研究の目標

高度な研究能力や教育的指導力を備えた人材を養成するため、学校教育、臨床心理に関する理論的、実践的研究をとおして、現代社会がかかえる教育の諸問題に対処しうる判断力と問題解決能力の涵養を図っていきます。

〔学校教育専攻〕

1. 学校教育コース

学校教育の幅広い分野に関する専門的な教育ならびに各分野の諸問題についての理論的研究と現実の教育問題を解決するための実践的研究を行い、高い研究能力と実践的指導力を持った教員を養成します。

2. 臨床心理学コース

臨床心理学に関する専門的な教育や実習をとおして、様々な臨床心理学的課題やところへの援助についての教育・研究を行い、心理臨床の実践力を持った臨床心理士および公認心理師を養成します。

〔教職開発専攻〕

1. 学校経営コース

いじめや不登校などの様々な教育問題を克服し、組織マネジメント、地域連携などの新たな教育課題に応えながら、子どもたちの健やかな成長を育み、確かな学力を育てる、創造的な学校づくりを目指して学校運営に取り組む力量を持ったスクールリーダー（管理職等）を養成します。

2. 教職実践コース

子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能の修得に加えて、思考力・判断力・表現力等を育成するために、知識・技能を活用する学習活動、課題探究型の学習、協働的な学びなど、新しい学びをデザインできる実践的指導力を持った新人・中堅教員、そして、児童生徒の生徒指導上の問題に対して、学校内外の人的資源を活用しながら組織的に対応でき、児童生徒の自己指導能力を育成することのできる実践的指導力を持った新人・中堅教員を養成します。

求める学生像

- ・学校教育に対する明確な課題をもち、課題解決のための研究と実践を、知的好奇心と情熱をもって遂行する人
- ・地域がかかえる多様な教育問題に対処するため、高度な教育的指導力を備えた教師をめざしている人

以上の点に加えて、各専攻・コースにおいては次のような人を求めています。

[学校教育専攻]

1. 学校教育コース

教育学，教育心理学，特別支援教育，幼児教育及び教科実践に関する理論的研究や実践的研究をより深く追究したい人

2. 臨床心理学コース

臨床心理士および公認心理師の資格取得をめざし，臨床心理学に関する理論的研究や実践的研究をより深く追究したい人

[教職開発専攻]

1. 学校経営コース

様々な教育課題に応える新たな学校づくりにおいて中核的な役割を担い，組織としての学校の力を引き出すスクールリーダーとして活躍したい人

2. 教職実践コース

新しい学びをはぐくむ学校づくりに寄与する学習指導，生徒指導等の実践的指導力の向上を求める人

入学者選抜の基本方針

学校教育における理論と実践に関する高い研究能力と教育的指導力の養成を目的としているため，学校教育に関する幅広い基礎的知識と明確な目的意識に加え，教育に対する情熱を求めます。また，地域がかかえる教育の諸問題に対処し，地域社会と連携した研究・教育を推進するため，現職教員等を積極的に受け入れます。

この方針のもとに，本研究科では，一般志願者，現職教員等を対象に，それぞれ異なる方法で選考を行い，「求める学生像」にふさわしい学生を選抜します。

[学校教育専攻]

- ・一般志願者（学校教育コース，臨床心理学コース）

入学者の選抜は，論述試験（学校教育コースは専攻する教育学に関する小論文，臨床心理学コースは英語，臨床心理学，その他の心理学に関する問題），口述試験（「研究計画書」等を中心とした試問）の結果を総合して選考します。

- ・現職教員等（学校教育コース）

入学者の選抜は，書類審査（「志願理由書」をもとにした審査），口述試験（「志願理由書」等を中心とした試問）の結果を総合して選考します。

[教職開発専攻]

- ・一般志願者（教職実践コース）

入学者の選抜は，論述試験（教育に関する知識を問う小論文），口述試験（「志願理由書」等を中心とした試問）の結果を総合して選考します。

- ・現職教員等（学校経営コース，教職実践コース）

入学者の選抜は，書類審査（「志願理由書」及び「教育実践・研究活動等報告書」をもとにした審査），口述試験（「志願理由書」及び「教育実践・研究活動等報告書」等を中心とした試問）の結果を総合して選考します。

大分大学大学院教育学研究科学位授与の方針 (DP：ディプロマ・ポリシー)

【学校教育専攻】

大分大学大学院教育学研究科は、所定の教育課程を履修することを通して、以下の資質や能力を修得し、学位論文等の審査および最終試験に合格した学生に修士（教育学）の学位を授与する。

1. 教育の理論と実践に関する高度な研究能力と教育的指導力を修得している。
2. 身につけた広い視野と精深な学識のもと、現代的教育課題を解決するための判断力と問題解決能力を備えている。
3. 理論と省察の往還により実践力を深め、地域教育の発展に寄与することができる。

【教職開発専攻】

大分大学大学院教育学研究科は、所定の教育課程を履修することを通して、以下の資質や能力を修得し、教育実践研究報告書等の審査および最終試験に合格した学生に教職修士（専門職）の学位を授与する。

1. 学校づくりを担うスクールリーダーに必要な知見と実践力を修得している。
2. 児童生徒の確かな学びと育ちをはぐくむことのできる実践的指導力を修得している。
3. 地域社会と連携・協働しながら、教育課題を発見し、解決できる実践力を修得している。

◎教育学研究科 学校教育専攻（修士課程）

I 入試日程

| 区 分 | 第1次募集 | 第2次募集 | 第3次募集 |
|-------|---------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 出願期間 | 平成30年9月10日（月） ～平成30年9月14日（金） | 平成30年11月12日（月） ～平成30年11月16日（金） | 平成31年2月18日（月） ～平成31年2月22日（金） |
| 試験日 | 平成30年10月13日（土） | 平成30年12月15日（土） | 平成31年3月14日（木） |
| 合格者発表 | 平成30年10月23日（火） | 平成30年12月21日（金） | 平成31年3月18日（月） |

※募集人員に満たない場合は、第3次募集まで実施する予定です。

※第2次、第3次募集を行う場合は、大分大学ホームページでお知らせしますので、必ず確認してください。

II 募集人員

一般選抜及び現職教員等選抜

| 専 攻 | コース（分野） | | 募集人員 |
|------|----------|-------------|------|
| 学校教育 | 学校教育コース | （教 育 学） | 15人 |
| | | （教 育 心 理 学） | |
| | | （特別支援教育） | |
| | | （教 科 実 践） | |
| | 臨床心理学コース | （臨 床 心 理 学） | 6人 |
| 合 計 | | | 21人 |

備考

- 1 学校教育専攻学校教育コースの募集人員は、現職教員等を含みます。
- 2 学校教育専攻臨床心理学コースは、一般選抜の方法となります。

III 出願資格

各コースがそれぞれ定める出願要件を有し、基礎資格の（1）から（9）のいずれかに該当する者

出願要件

《学校教育専攻学校教育コース》

一般選抜

- ・教育職員免許状（一種）を取得（見込みを含む）している者

現職教員等選抜

- ・日本の教育職員免許状を取得し、次の各号の一に掲げる者

- 1 学校教育法第1条に定める学校あるいは、教育公務員特例法第2条に規定する専門的教育職員として現に在職している者で、かつ、平成31年4月1日現在で3年以上の教職経験を有する者
- 2 平成31年4月1日現在で、学校教育法第1条に定める学校において通算3年以上の教職経験（非常勤・臨時講師等を含む）を有する者

《学校教育専攻臨床心理学コース》

下記の基礎資格以外の出願要件はありません。

基礎資格

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者、及び平成31年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者、及び平成31年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者、及び平成31年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者、及び平成31年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
「昭和28年文部省告示第5号」抜粋
教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校、中学校、高等学校、幼稚園の教諭もしくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有する者で、平成31年3月31日までに22歳に達した者
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成31年3月31日までに22歳に達した者

(注) (6), (9)については、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生やその他教育施設の卒業生等であっても、個別の入学資格審査により大学院への入学資格を認めることができるとしているものです。これにより出願する者は、下記の期日までに大分大学学生支援部入試課（TEL 097-554-6701）に問い合わせてください。

| | | |
|-------|----------------|---------|
| 第1次募集 | 平成30年8月17日（金） | 17：00まで |
| 第2次募集 | 平成30年10月26日（金） | 17：00まで |
| 第3次募集 | 平成31年2月1日（金） | 17：00まで |

IV 出願手続

志願者は「V 出願書類等」に掲げる書類等を取り揃え、下記出願期間中に提出してください。

1 出願期間

| | | | |
|-------|-----------------|-----------|-------------|
| 第1次募集 | 平成30年9月10日（月）～ | 9月14日（金） | 17：00まで（必着） |
| 第2次募集 | 平成30年11月12日（月）～ | 11月16日（金） | 17：00まで（必着） |
| 第3次募集 | 平成31年2月18日（月）～ | 2月22日（金） | 17：00まで（必着） |

ア 受付時間は、9時から17時までとします。（土日、及び祝日を除く。）
イ 郵送の場合は、本学所定の封筒を用い、書留速達にしてください。

2 提出先

〒 870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課

V 出願書類等

| 区 分 | 摘 要 | 該 当 者 | |
|-------------------------------|---|------------------------|-------|
| | | 一般 | 現職教員等 |
| ① 入学志願書・受験票 | 本学所定の用紙 | ○ | ○ |
| ② 成績証明書 | 最終出身学校長又は学部長等が発行したもの | ○ | / |
| ③ 卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書 | | ○ | ○ |
| ④ 学士の学位授与証明書又は学士の学位授与申請書受理証明書 | 大学評価・学位授与機構が証明したもの | 出願資格2号該当者 | |
| ⑤ 教育職員免許状授与証明書又は教育職員免許状の写し | 免許状を授与した都道府県教育委員会が発行したもの | ○ 該当する 証明書等 ※ | ○ |
| ⑥ 教育職員免許状取得見込証明書 | 在籍する大学の学長又は学部長等が発行したもの ※平成31年3月末取得予定者はこちらを提出すること | | / |
| ⑦ 志願理由書(学校教育専攻) | 本学所定の様式に従って作成したもの | / | ○ |
| ⑧ 研究計画書 | 本学所定の用紙 | ○ | / |
| ⑨ 受験承諾書 | 現に学校及び教育関係機関に在職している者で現職のまま入学を希望する者は、本学所定の用紙により所属長が作成したもの | / | ○ |
| ⑩ 入学検定料払込証明書 (30,000円) | <p>①②いずれかの方法でお支払いください。</p> <p>①金融機関（郵便局を含む）でお支払位の場合 本学所定の振込用紙を用い、必ず窓口でお支払いください（ATM不可）。</p> <p>②コンビニエンスストア（一部）でお支払いの場合 下記URLから申し込み、受付番号を入手後 コンビニエンスストアでお支払いください。 ・パソコンからの本学ホームページ (http://www.oita-u.ac.jp/) 上部メニュー → 入試情報 → 検定料のコンビニ収納 から申し込んでください。 ・携帯電話からの申し込みURL (https://www.oita-u.net/mobile/)</p> <p>※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。</p> <p>振込後は、①の場合は「振替払込受付証明書（大学提出用）」を、②の場合は「収納証明書（コンビニエンスストアによって領収書）」を受験票下の貼付欄にはがれないように糊付けしてください。手数料は本人負担です。 納付した検定料の返還はできません。</p> | ○ | ○ |
| ⑪ 受験票等返送用封筒 | 本学所定の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、362円分の切手を貼ったもの | ○ | ○ |
| ⑫ 合格通知用住所シール | 本学所定の用紙に、すべて記入したもの | ○ | ○ |

※臨床心理学コースの志願者は、本様式は該当しません。

VI 出願上の注意事項

- 1 出願後の書類の変更・返却及び検定料の払い戻しはできません。
- 2 提出書類中、外国語で書かれた証明書等には、その日本語翻訳文を添付してください。
- 3 現職教員等以外の在職中の者は、出願時に受験承諾書を提出する必要はありませんが、合格した後在職したまま入学を希望する場合は、入学手続の際に勤務先の入学承諾書が必要です。なお、非常勤・臨時雇用等で、入学時に職場の変更が予想される場合は、入学後に勤務先の入学承諾書を提出してください。
- 4 改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。
- 5 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律及び国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシーに基づき、入学選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学料・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した者にあつては、その選考資料として利用します。
- 6 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- 7 災害に関する特別措置（入学検定料等）につきましては、本学ホームページ（<http://www.oita-u.ac.jp/>）でお知らせします。

VII 入学者選抜方法等

1 論述試験及び口述試験

- (1) 論述試験・口述試験 実施日
第1次募集 平成30年10月13日（土）
第2次募集 平成30年12月15日（土）
第3次募集 平成31年3月14日（木）
- (2) 論述試験・口述試験 検査場 大分大学大学院教育学研究科（教育学部棟内）
- (3) 論述試験・口述試験 時間割

○一般選抜

| 専攻 | コース | 論述試験 | 口述試験 |
|------|----------|-------------|--------|
| 学校教育 | 学校教育コース | 10:00~11:20 | 13:00~ |
| | 臨床心理学コース | 10:00~12:00 | 13:00~ |

○現職教員等選抜

| 専攻 | コース | 口述試験 |
|------|---------|--------|
| 学校教育 | 学校教育コース | 13:00~ |

備考

- (1) 検査日前日の15時~17時の間に検査場の下見をすることができます。試験室については、検査日前日の15時に教育学部棟玄関前に表示します。受験者は検査日当日、教育学部棟玄関前にて受付した後、試験開始15分前までに入室、着席してください。
- (2) 受付時刻は次のとおりです。
※一般志願者の受付は9時30分から。
※現職教員の受付は12時30分から。
- (3) 試験開始後30分以上遅刻した者は、受験できません。
- (4) 試験時間中は、必ず受験票を机の上に置いてください。

2 論述試験科目及び口述試験

一般志願者の選抜方法

入学者の選抜は、論述試験、口述試験の結果を総合して行います。

○印は選択科目を示します。

| 専攻 | コース | 論 述 試 験 | 口 述 試 験 |
|------------------|----------|---|------------------------|
| 学 校 教 育 | 学校教育コース | 専攻する教育学に関する小論文 1科目選択 ○教育学 ○教育心理学 ○特別支援教育 ○国語科教育 ○社会科教育 ○数学科教育 ○理科教育 ○音楽科教育 ○美術科教育 ○保健体育科教育 ○技術科教育 ○家庭科教育 ○英語科教育 | 「研究計画書」等を中心に試問 します。 |
| | 臨床心理学コース | 英語，臨床心理学，その他の心理学に関する問題 | |

【備考】

- (1) 学校教育コースの論述試験では、専攻する教育学に関する小論文の選択科目は入学後の主たる研究分野に該当する科目を選択してください。
- (2) 臨床心理学コースの「その他の心理学に関する問題」は、認知心理学，学習心理学，教育心理学，発達心理学，社会心理学等の中から出題します。
- (3) 臨床心理学コースの英語に関する問題においては、辞書（英和）の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書の持ち込みは認めません。

現職教員等の選抜方法

入学者の選抜は、「志願理由書」等をもとにした書類審査及び口述試験の結果を総合して行います。

| 専攻 | コース | 書類審査 | 口述試験 |
|------|---------|-------------------|--------------------|
| 学校教育 | 学校教育コース | 「志願理由書」をもとに審査します。 | 「志願理由書」等を中心に試問します。 |

「志願理由書（学校教育専攻）」記入上の注意事項

- (1) 「志願理由書」には、(1)研究テーマ、(2)志願理由、(3)研究テーマ・志願理由に関連するこれまでの教育実践活動（研究授業、校内研修、研究会活動等を含む）、(4)研究計画を記入してください。
- (2) 「志願理由書（学校教育専攻）」の様式に従って作成してください。原則としてワードファイルで作成したものとしますが、手書きも認めます。
- (3) 手書きの場合は、黒の万年筆かボールペンを使用し、文字は楷書、数字は算用数字で正確に記入してください。
- (4) A4判を用いて、1枚目は40字×30行、2枚目以降は氏名と枚数番号をつけて、40字×40行で記入してください。
- (5) 字数は全体で4,000字程度とします。
- (6) 作成した書類は左上をホッチキスで留めて提出してください。

3 検査の配点

| 専攻 | コース | 一般選抜 | | 現職教員等 | |
|------|----------|------|------|-------|------|
| | | 論述試験 | 口述試験 | 書類審査 | 口述試験 |
| 学校教育 | 学校教育コース | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | 臨床心理学コース | 150 | 50 | — | — |

◎教育学研究科 教職開発専攻（専門職学位課程）〔教職大学院〕

I 入試日程

| 区 分 | 第1次募集 | 第2次募集 | 第3次募集 |
|-------|---------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 出願期間 | 平成30年9月10日（月） ～平成30年9月14日（金） | 平成30年11月12日（月） ～平成30年11月16日（金） | 平成31年2月18日（月） ～平成31年2月22日（金） |
| 試験日 | 平成30年10月13日（土） | 平成30年12月15日（土） | 平成31年3月14日（木） |
| 合格者発表 | 平成30年10月23日（火） | 平成30年12月21日（金） | 平成31年3月18日（月） |

※募集人員に満たない場合は、第3次募集まで実施する予定です。

※第2次、第3次募集を行う場合は、大分大学ホームページでお知らせしますので、必ず確認してください。

II 募集人員

一般選抜及び現職教員等選抜

| 専 攻 | コ ー ス | 募集人員 |
|------|---------|------|
| 教職開発 | 学校経営コース | 6人 |
| | 教職実践コース | 4人 |
| 合 計 | | 10人 |

備考

- 1 教職開発専攻学校経営コースは、現職教員等選抜の方法となります。募集人員には、大分県教育委員会から派遣される現職教員等の受入れ枠を含みます。
- 2 教職開発専攻教職実践コースの募集人員は、現職教員等を含みます。

III 出願資格

各コースがそれぞれ定める出願要件を有し、基礎資格の（1）から（9）のいずれかに該当する者

出願要件

《教職開発専攻学校経営コース》

現職教員等選抜

- ・日本の教育職員免許状を取得し、次に掲げる者
 学校教育法第1条に定める学校あるいは、教育公務員特例法第2条に規定する専門的教育職員として現に在職している者で、かつ、平成31年4月1日現在で10年以上の教職経験（非常勤・臨時講師等を含む）を有する者又はそれに準ずる社会経験を有すると認められる者

《教職開発専攻教職実践コース》

一般選抜

- ・教育職員免許状（一種）を取得（見込みを含む）している者

現職教員等選抜

日本の教育職員免許状を取得し、次の各号の一に掲げる者

- 1 学校教育法第1条に定める学校あるいは、教育公務員特例法第2条に規定する専門的教育職員として現に在職している者で、かつ、平成31年4月1日現在で3年以上の教職経験を有する者
- 2 平成31年4月1日現在で、学校教育法第1条に定める学校において通算3年以上の教職経験（非常勤・臨時講師等を含む）を有する者

基礎資格

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学を卒業した者、及び平成31年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者、及び平成31年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者、及び平成31年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者、及び平成31年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
「昭和28年文部省告示第5号」抜粋
教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校、中学校、高等学校、幼稚園の教諭もしくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有する者で、平成31年3月31日までに22歳に達した者
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成31年3月31日までに22歳に達した者

(注) (6), (9)については、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生やその他教育施設の卒業生等であっても、個別の入学資格審査により大学院への入学資格を認めることができるとしているものです。これにより出願する者は、下記の期日までに大分大学学生支援部入試課（TEL 097-554-6701）に問い合わせてください。

| | | |
|-------|----------------|---------|
| 第1次募集 | 平成30年8月17日（金） | 17：00まで |
| 第2次募集 | 平成30年10月26日（金） | 17：00まで |
| 第3次募集 | 平成31年2月1日（金） | 17：00まで |

IV 出願手続

志願者は「V 出願書類等」に掲げる書類等を取り揃え、下記出願期間中に提出してください。

1 出願期間

| | | | |
|-------|-----------------|-----------|-------------|
| 第1次募集 | 平成30年9月10日（月）～ | 9月14日（金） | 17：00まで（必着） |
| 第2次募集 | 平成30年11月12日（月）～ | 11月16日（金） | 17：00まで（必着） |
| 第3次募集 | 平成31年2月18日（月）～ | 2月22日（金） | 17：00まで（必着） |

ア 受付時間は、9時から17時までとします。（土日、及び祝日を除く。）
イ 郵送の場合は、本学所定の封筒を用い、書留速達にしてください。

2 提出先

〒 870-1192 大分市大字旦野原700番地 大分大学学生支援部入試課

V 出願書類等

| 区 分 | 摘 要 | 該 当 者 | |
|-------------------------------|--|-----------|-------|
| | | 一般 | 現職教員等 |
| ① 入学志願書・受験票 | 本学所定の用紙 | ○ | ○ |
| ② 成績証明書 | 最終出身学校長又は学部長等が発行したもの | ○ | / |
| ③ 卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書 | | ○ | ○ |
| ④ 学士の学位授与証明書又は学士の学位授与申請書受理証明書 | 大学評価・学位授与機構が証明したもの | 出願資格2号該当者 | |
| ⑤ 教育職員免許状授与証明書又は教育職員免許状の写し | 免許状を授与した都道府県教育委員会が発行したもの | ○ | ○ |
| ⑥ 教育職員免許状取得見込証明書 | 在籍する大学の学長又は学部長等が発行したもの ※平成31年3月末取得予定者はこちらを提出すること | 該当する証明書等 | / |
| ⑦ 志願理由書(教職開発専攻) | 本学所定の様式に従って作成したもの | ○ | ○ |
| ⑧ 教育実践・研究活動等報告書 | 本学所定の様式に従って作成したもの | / | ○ |
| ⑨ 受験承諾書 | 現に学校及び教育関係機関に在職している者で現職のまま入学を希望する者は、本学所定の用紙により所属長が作成したもの | / | ○ |
| ⑩ 入学検定料払込証明書 (30,000円) | <p>①②いずれかの方法でお支払いください。</p> <p>①金融機関（郵便局を含む）でお支払位の場合 本学所定の振込用紙を用い、必ず窓口でお支払いください（ATM不可）。</p> <p>②コンビニエンスストア（一部）でお支払いの場合 下記URLから申し込み、受付番号を入手後 コンビニエンスストアでお支払いください。 ・パソコンからの本学ホームページ (http://www.oita-u.ac.jp/) 上部メニュー → 入試情報 → 検定料のコンビニ収納 から申し込んでください。 ・携帯電話からの申し込みURL (https://www.oita-u.net/mobile/)</p> <p>※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。 振込後は、①の場合は「振替払込受付証明書（大学提出用）」を、②の場合は「収納証明書（コンビニエンスストアによって領収書）」を受験票下の貼付欄にはがれないように糊付けしてください。手数料は本人負担です。 納付した検定料の返還はできません。</p> | ○ | ○ |
| ⑪ 受験票等返送用封筒 | 本学所定の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、362円分の切手を貼ったもの | ○ | ○ |
| ⑫ 合格通知用住所シール | 本学所定の用紙に、すべて記入したもの | ○ | ○ |

VI 出願上の注意事項

- 1 出願後の書類の変更・返却及び検定料の払い戻しはできません。
- 2 提出書類中、外国語で書かれた証明書等には、その日本語翻訳文を添付してください。
- 3 現職教員等以外の在職中の者は、出願時に受験承諾書を提出する必要はありませんが、合格した後在職したまま入学を希望する場合は、入学手続の際に勤務先の入学承諾書が必要です。なお、非常勤・臨時雇用等で、入学時に職場の変更が予想される場合は、入学後に勤務先の入学承諾書を提出してください。
- 4 改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。
- 5 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律及び国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシーに基づき、入学選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学科・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した者にあつては、その選考資料として利用します。
- 6 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- 7 災害に関する特別措置（入学検定料等）につきましては、本学ホームページ（<http://www.oita-u.ac.jp/>）でお知らせします。

VII 入学選抜方法等

1 論述試験及び口述試験

- (1) 論述試験・口述試験 実施日
第1次募集 平成30年10月13日（土）
第2次募集 平成30年12月15日（土）
第3次募集 平成31年3月14日（木）
- (2) 論述試験・口述試験 検査場 大分大学大学院教育学研究科（教育学部棟内）
- (3) 論述試験・口述試験 時間割

○一般選抜

| 専攻 | コース | 論述試験 | 口述試験 |
|------|---------|-------------|--------|
| 教職開発 | 教職実践コース | 10:00~11:20 | 13:00~ |

○現職教員等選抜

| 専攻 | コース | 口述試験 |
|------|---------|--------|
| 教職開発 | 学校経営コース | 13:00~ |
| | 教職実践コース | 13:00~ |

備考

- (1) 検査日前日の15時~17時の間に検査場の下見をすることができます。試験室については、検査日前日の15時に教育学部棟玄関前に表示します。受験者は検査日当日、教育学部棟玄関前にて受付した後、試験開始15分前までに入室、着席してください。
- (2) 受付時刻は次のとおりです。
※一般志願者の受付は9時30分から。
※現職教員の受付は12時30分から。
- (3) 試験開始後30分以上遅刻した者は、受験できません。
- (4) 試験時間中は、必ず受験票を机の上に置いてください。

2 論述試験科目及び口述試験

一般志願者の選抜方法

入学者の選抜は、論述試験、口述試験の結果を総合して行います。

| 専攻 | コース | 論 述 試 験 | 口 述 試 験 |
|------|---------|----------------|--------------------|
| 教職開発 | 教職実践コース | 教育に関する知識を問う小論文 | 「志願理由書」等を中心に試問します。 |

現職教員等の選抜方法

入学者の選抜は、「志願理由書」等をもとにした書類審査及び口述試験の結果を総合して行います。

| 専攻 | コース | 書 類 審 査 | 口 述 試 験 |
|------|---------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 教職開発 | 学校経営コース | 「志願理由書」及び「教育実践・研究活動等報告書」をもとに審査します。 | 「志願理由書」及び「教育実践・研究活動等報告書」等を中心に試問します。 |
| | 教職実践コース | | |

「志願理由書（教職開発専攻）」記入上の注意事項

- (1) 「志願理由書」には、(1)研究テーマ、(2)本大学院での学修目標、(3)本大学院で期待する学修の効果、(4)本大学院での学修を志望する背景を記入してください。
- (2) 「志願理由書（教職開発専攻）」の様式に従って作成してください。原則としてワードファイルで作成したものとしますが手書きも認めます。
- (3) 手書きの場合は、黒の万年筆かボールペンを使用し、文字は楷書、数字は算用数字で正確に記入してください。
- (4) A4判を用いて作成し、2枚目以降は氏名と枚数番号をつけて記入してください。
- (5) 字数は全体で4,000字程度とします。
- (6) 作成した書類は左上をホッチキスで留めて提出してください。

3 検査の配点

| 専攻 | コース | 一般選抜 | | 現職教員等 | |
|------|---------|------|------|-------|------|
| | | 論述試験 | 口述試験 | 書類審査 | 口述試験 |
| 教職開発 | 学校経営コース | — | — | 100 | 100 |
| | 教職実践コース | 100 | 100 | 100 | 100 |

◎共通事項

I 障がいのある者等の事前相談について

本学へ入学を志願する者のうち、障がいのある者等で、受験上及び就学上特別の配慮を必要とする場合は、次の事項を記載した書面（様式任意）に、医師の診断書を添えて、下記期日までに、入試課に提出してください。

- ・障がいの種類・程度
- ・受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ・就学の際に特別な配慮を希望する事項
- ・日常生活の状況及びその他参考となる事項

| | | |
|-------|----------------|---------|
| 第1次募集 | 平成30年8月17日（金） | 17：00まで |
| 第2次募集 | 平成30年10月26日（金） | 17：00まで |
| 第3次募集 | 平成31年2月1日（金） | 17：00まで |

II 合格者の発表

| | | |
|-------|----------------|-------|
| 第1次募集 | 平成30年10月23日（火） | 10：00 |
| 第2次募集 | 平成30年12月21日（金） | 10：00 |
| 第3次募集 | 平成31年3月18日（月） | 10：00 |

合格者には郵送により通知します。

また、大分大学ホームページ（<http://www.oita-u.ac.jp/>）にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による可否の問い合わせには一切お答えしません。

III 入学手続

合格者には、合格通知書とともに入学手続に必要な案内を送付します。

なお、在職のまま入学を希望する者（現職教員等を除く）は、入学手続時に勤務先の入学承諾書を提出してください。また、非常勤・臨時雇用等で、入学時に職場の変更が予想される場合は、入学後に勤務先の入学承諾書を提出してください。

IV 入学料及び授業料

入学料 282,000円

授業料（年額）535,800円（前期分267,900円 後期分267,900円）

注1 入学料については、免除・徴収猶予・奨学融資の制度が、授業料については免除・奨学融資の制度があります。免除・徴収猶予の申請は、入学手続期間に行う必要がありますので、詳細については、学生支援課奨学支援グループ（TEL 097-554-7386）までお問い合わせください。

注2 入学料・授業料は改定されることがあります。

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

注3 既納の入学料は返還できません。

注4 入学料の免除・徴収猶予を申請される方は、入学料を払い込まずに入学手続期間に申請書類を提出してください。ただし、入学手続完了後に入学を辞退した場合は、直ちに入学料を納付しなければなりません。

V 長期履修制度について

標準の修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、現職教員等、有職者（正規雇用、臨時雇用を問いません）及び正規の履修期間内で修学が困難な事情（家事、育児及び介護など）がある者です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められますが、第1学年が終了する前に申請することもできます。その場合の適用は翌年度からになります。また、修学状況等の変動により、申請した修学年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、下記の「授業料の納入例」を参照してください。

なお、申請方法等については入学手続案内でお知らせします。

【授業料の納入例】（平成29年度の場合）

標準修業年限（2年）

| | | |
|------------|------------|------------|
| 1年次 | 2年次 | 合計 |
| (535,800円) | (535,800円) | 1,071,600円 |

ア 入学時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合の年額授業料

| | | |
|------------|------------|------------|
| 1年目 | 2年目 | 3年目 |
| (357,200円) | (357,200円) | (357,200円) |

$$1,071,600円 \div 3年 = 357,200円$$

イ 入学時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合の年額授業料

| | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 |
| (267,900円) | (267,900円) | (267,900円) | (267,900円) |

$$1,071,600円 \div 4年 = 267,900円$$

VI 教育方法の特例措置について

現職教員等に対しては、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を適用し、現職教員等が高等教育を受ける機会を拡大するための措置を行います。

教育方法の特例措置は以下の1方式とします。

《学校教育専攻学校教育コース》

- (1) 1年次にあつては、現職を離れて、通常の間帯に開講される授業を履修するとともに研究指導を受け、課程修了に必要な30単位のうち原則として22単位以上を修得します。
- (2) 2年次にあつては、在職校等に勤務しながら、本研究科の指定した時間又は時間帯（通常の授業時間及び夏季・冬季の休業期間等）に通学し、課題研究6単位を含め課程修了に必要な残りの単位を修得するとともに、修士論文を作成します。

（注）上記の特例措置は、学校教育専攻臨床心理学コースについては適用されません。

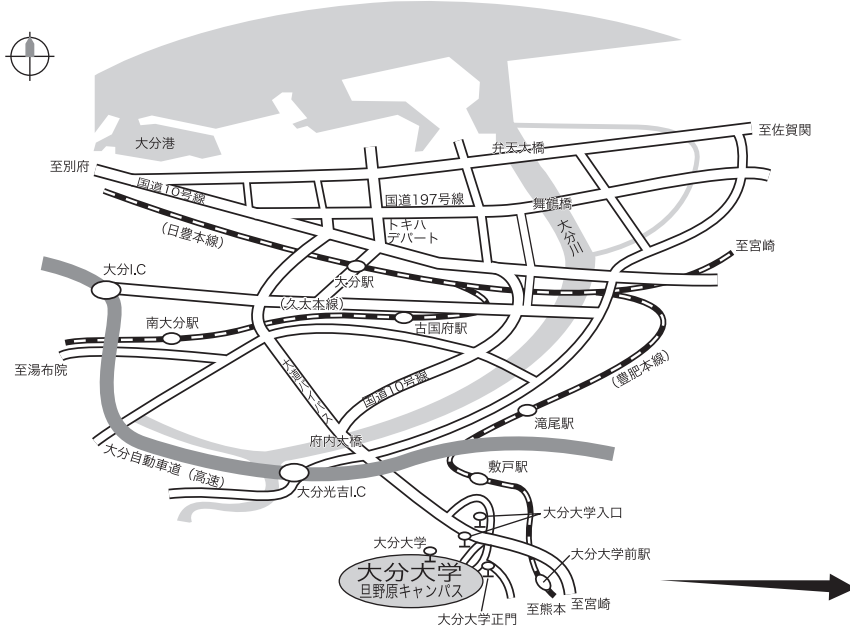
《教職開発専攻》

- (1) 1年次にあつては、現職を離れて、通常の間帯に開講される授業を履修するとともに研究指導を受け、課程修了に必要な50単位のうち原則として41単位以上を修得します。
- (2) 2年次にあつては、在職校等に勤務しながら、「学校経営実地研究Ⅲ」または「学校実践実地研究Ⅲ」の学校実習を現任校で実施し、火曜日4時限に開講の「学校マネジメント研究」または「教育実践研究」の2単位を含め課程修了に必要な残りの単位を修得するとともに、教育実践研究報告書を作成します。

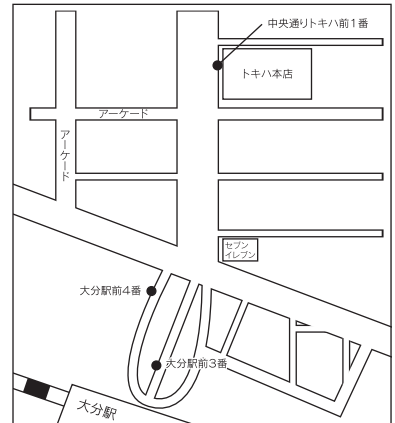
（注）平成28年度入学生より「1・2年次とも夜間等の授業を履修する方式（夜間方式）」の特例措置は適用されません。

◎ 検査場案内図

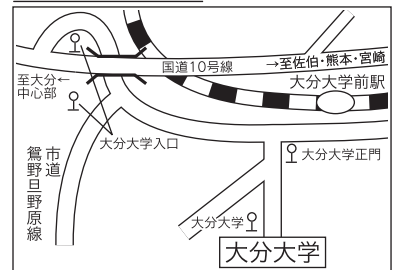
大分大学旦野原キャンパス位置図



バスのりば案内図



大学入口案内図



● 交通アクセス

< JR 利用 >

JR 豊肥本線「大分大学前駅」下車（大分駅より約15分），徒歩約10分。

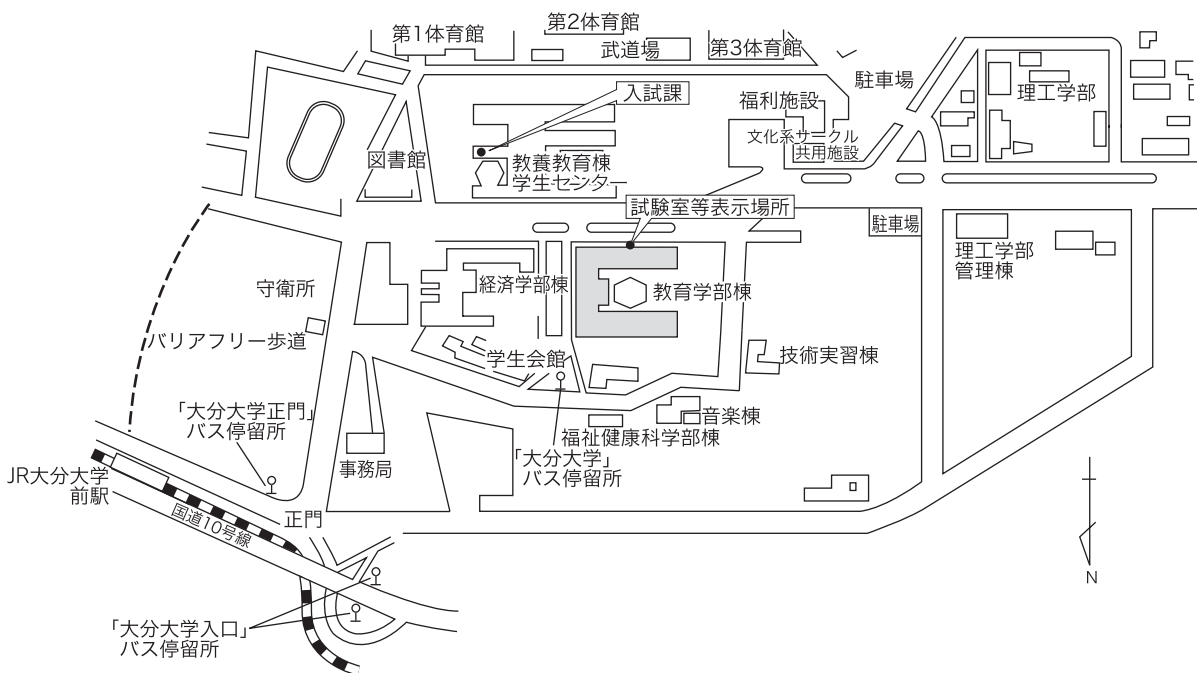
< バス利用 >

大分バス 中央通り [トキハ前1番のりば] 又は JR 大分駅府内中央口（北口） [大分駅前3番又は4番のりば] から

○ 「大南団地（高江ニュータウン）」行きを利用（約40分），「大分大学」又は「大分大学正門」下車

○ 「戸次，白杵，佐伯」行きを利用（約40分），「大分大学入口」下車，徒歩約10分
（詳細は時刻表で確認してください。）

旦野原キャンパス案内図



教育学研究科案内

I 概 要

本研究科は、「学校教育専攻」（修士課程）及び「教職開発専攻」（専門職学位課程）〔教職大学院〕の2専攻で構成されています。

「学校教育専攻」には学校教育コース及び臨床心理学コースが設けられており、学校教育コースは教育学、教育心理学、特別支援教育、教科実践の分野からなっており、臨床心理学コースは臨床心理学の分野からなっています。

「教職開発専攻」には学校経営コース及び教職実践コースが設けられています。

[学校教育専攻]

《学校教育コース》

学校教育コースは、教育学、教育心理学、特別支援教育、教科実践などの分野における専門的な学習に基づいて、各分野の諸問題についての理論的研究と現実の教育問題を解決するための実践的研究を行います。

《臨床心理学コース》

臨床心理学や心理療法、カウンセリング、心理査定などの理論や技法、および援助スキルに関する専門的な知識を深め、学内外での臨床心理実習を通じて心理臨床の実践力の修得を目指し、さまざまな臨床心理学的課題やこころの援助についての研究を行います。なお、本コースは、臨床心理士を養成するためのコースとして、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会より「第1種大学院」の指定を受けています。また、平成30年度入学生から、これまでの臨床心理士養成に関する教育に、公認心理師の受験資格取得に必要な科目を追加した新カリキュラムによる教育を開始しています。

[教職開発専攻]

スクールリーダー（管理職等）の養成と高度な実践的指導力をもった教員の養成を目的とし、理論と実践の往還を通じた実践的な学修を重視しており、「共通科目」、「コース科目」及び「実習科目」を通じて、具体例を手掛かりに理論的知識を実際に応用する事例分析、具体的なデータ等を用いた演習を中心としたグループ討議、模擬授業、ワークショップ、フィールドワークなどの学修方法を、授業科目の特性に応じて組み合わせた教育研究を行います。

各コースにおける分野と入学定員は、次表のとおりです。

| 専 攻 | コ ー ス | 分 野 | 入 学 定 員 | | |
|------|-----------|---|--|-----|-----|
| 学校教育 | 学校教育コース | (教 育 学) | 教育哲学, 学校経営, 教育内容・方法論, 生徒指導論, 道徳教育, 幼児教育学 | 15人 | 21人 |
| | | (教育心理学) | 教育心理学, 学習心理学, 発達心理学, 幼児心理学 | | |
| | | (特別支援教育) | 障害児教育, 障害児心理学, 障害児生理学 | | |
| | (教 科 実 践) | 国語科教育, 社会科教育, 数学科教育, 理科教育, 音楽科教育, 美術科教育, 保健体育科教育, 技術科教育, 家庭科教育, 英語科教育 | | | |
| | 臨床心理学コース | (臨床心理学) | 臨床心理学 | 6人 | |
| 教職開発 | 学校経営コース | | | 6人 | 10人 |
| | 教職実践コース | | | 4人 | |
| 合 計 | | | | 31人 | |

Ⅱ 修士論文等及び学位（修士課程）

[学校教育専攻]

1 修士論文

修士論文は、教育の発展にかかわる基礎的研究をもととした学術論文であり、教育実践の向上に寄与する学術論文とします。

2 学位

研究科に2年（標準）以上在学し、各コースで定めた授業科目30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者は、大分大学大学院教育学研究科を修了したものと認定され、「修士（教育学）」の学位が授与されます。

Ⅲ 教育実践研究報告書等及び学位（専門職学位課程）

[教職開発専攻]

1 教育実践研究報告書

教育実践研究報告書は、課題テーマを設定し、2年間の講義ならびに学校経営実地研究または、学校実践実地研究の教育経験等を理論的に分析した報告書であり、教育実践の向上に寄与するものとします。

2 学位

研究科に2年（標準）以上在学し、各コースで定めた授業科目50単位（実習科目10単位及び教育実践研究報告書の審査及び最終試験を含む。）以上を修得した者は、大分大学大学院教育学研究科を修了したものと認定され、「教職修士（専門職）」の学位が授与されます。

Ⅳ 免許・資格

教員免許状（専修免許状）

1種免許状を取得している者が当該専修免許状に必要な単位を修得して本研究科を修了すれば、専修免許状が取得できます。ただし、入学する専攻によっては、取得できない専修免許状があります。

専攻によって取得できる免許状は以下の表のとおりです。

2種免許状を取得している者は、本研究科を修了しても専修免許状は取得できません。

ただし、当該専修免許状に必要な単位を修得して本研究科を修了後、さらに必要な単位を加えて1種免許状を取得した場合は、教育委員会に申請して専修免許状を取得することができます。

| 専攻 | 取得できる免許状の種類 | 教 科 |
|---------|--|--|
| 学 校 教 育 | 幼 稚 園 教 諭 専 修 免 許 状 | |
| | 小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 | |
| | 中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 | 国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語 |
| | 高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 | 国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，書道，保健体育，工業，家庭，英語 |
| | 特 別 支 援 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 (領域：知的障害者，肢体不自由者，病弱者) | |
| 教 職 開 発 | 幼 稚 園 教 諭 専 修 免 許 状 | |
| | 小 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 | |
| | 中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 | 国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業，職業指導，英語，宗教 |
| | 高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 | 国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，看護，家庭，情報，農業，工業，商業，水産，福祉，商船，職業指導，英語，宗教 |

臨床心理士の受験資格

学校教育専攻臨床心理学コースは、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会より第1種大学院の指定を受けています。同コースに所属する学生は所定の単位を修得し、臨床心理学に関する修士論文を提出して修了すれば、臨床心理士の受験資格を得ることができます。

なお、「学校教育専攻臨床心理学コースに所属する学生」とは、学校教育専攻臨床心理学コースを受験し合格した入学生を指します。入学後に学校教育コースや教職開発専攻から臨床心理学コースへの転コースはできません。

公認心理師の受験資格

学校教育専攻臨床心理学コースは、平成30年度入学生から、これまでの臨床心理士養成に関する教育に、公認心理師の受験資格取得に必要な科目を追加した新カリキュラムによる教育を開始しています。学部で公認心理師受験に必要な科目を修めた人は、同コースで公認心理師に必要な科目を修めることで、公認心理師の受験資格を得ることができます。

V 研究科の履修基準及び授業科目

1 履修基準

本研究科において修得すべき単位数は、次のとおりです。

[学校教育専攻]

| コース | | 学校教育コース | |
|-----|--------------|----------|------|
| | | 必修 | 選択 |
| 分野等 | 教育学の分野の科目 | 選択必修 2単位 | 16単位 |
| | 教育心理学の分野の科目 | 選択必修 2単位 | |
| | 特別支援教育の分野の科目 | — | |
| | 教科実践の分野の科目 | — | |
| | 地域教育実践演習 | — | |
| 共通 | 教育課題実践演習 | 4単位 | |
| | 課題研究（注） | 6単位 | |
| | 計 | 30単位 | |

| コース | | 臨床心理学コース | |
|-----|--------------|-----------|------|
| | | 必修 | 選択 |
| 分野等 | 教育学の分野の科目 | — | 10単位 |
| | 教育心理学の分野の科目 | 選択必修 4単位 | |
| | 特別支援教育の分野の科目 | — | |
| | 臨床心理学の分野の科目 | 選択必修 10単位 | |
| 共通 | 地域教育実践演習 | — | |
| | 教育課題実践演習 | — | |
| | 課題研究（注） | 6単位 | |
| 計 | | 30単位 | |

注 課題研究とは、各自の専攻する1つの分野に関する主題を、継続的研究課題として2年間にわたって深く研究する科目で、修士論文に直結します。

[教職開発専攻]

| 科目区分 | コース | |
|-----------|---------|---------|
| | 学校経営コース | 教職実践コース |
| 共通科目 | 20単位 | 20単位 |
| 学校経営コース科目 | 18単位 | — |
| 教職実践コース科目 | — | 18単位 |
| 実習科目 | 10単位 | 10単位 |
| 教育実践研究報告書 | 2単位 | 2単位 |
| 計 | 50単位 | 50単位 |

2 授業科目

平成31年度の本研究科の担当教員、授業科目及び研究分野は、次のとおりです。

(1) 学校教育専攻

| 担当教員 | 授業科目 | 教員の専門研究分野又はテーマ |
|---------------|--|--|
| 教授 伊藤 安浩 | ・教育課程・学習指導論特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業を中心とした教育実践に関する研究 ・教員養成・教師教育に関する研究 ・日米教育の比較文化的研究 ・芸術・美と教育に関する研究 |
| 准教授 鈴木 篤 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育哲学特論 ・道徳教育特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に関する思想的・歴史的研究 ・子どもの道徳性に関する思想的・歴史的研究 ・各種の道徳授業方法の比較・分析 |
| 教授 住岡 敏弘 | ・学校経営学特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営組織の構成原理に関する研究 ・スクールリーダーの役割に関する研究 ・家庭、学校、地域社会の連携・協働の構築に関する研究 |
| 教授 竹中 真希子 | ・授業システム論特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータによる協調学習支援(CSCL) ・ICTを活用した学習環境の開発 ・教師教育カリキュラムの開発 |
| 准教授 長谷川 祐介 | ・生徒指導論特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動・部活動に関する社会学的研究 ・生徒指導に関する社会学的研究 |
| 准教授 田中 洋 | ・幼児心理学特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の社会性の発達研究 ・幼児の自己意識の研究 |
| 准教授 永田 誠 | ・幼児教育学特論 | ・幼児教育に関する教育学的研究 |
| 教授 古城 和敬 | ・教育社会心理学特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級集団過程に関する研究 ・児童・生徒の学級適応を高める指導法の研究 |
| 教授 藤田 敦 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学研究法特論 ・教授学習心理学特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・教授学習のプロセス ・認知発達 |
| 准教授 麻生 良太 | ・教育心理学特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育実践学 ・発達心理学 |
| 教授 武内 珠美 | <ul style="list-style-type: none"> ・※臨床心理学特論 I ・※臨床心理学特論 II ・※臨床心理展開実習(心理実践実習A)(通年) ・※臨床心理応用実習A(心理実践実習B)(通年) ・※臨床心理実習A(心理実践実習D)(通年) ・※臨床心理実習B(通年) ・臨床心理学研究法特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・母子関係・父子関係の発達と心理的問題 ・心理療法の理論と実践 ・教育相談 |

| 担当教員 | 授 業 科 目 | 教員の専門研究分野又はテーマ |
|----------------|--|--|
| 教授 渡 邊 亘 | <ul style="list-style-type: none"> ・※臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践) ・※臨床心理面接特論Ⅱ ・※臨床心理展開実習(心理実践実習A)(通年) ・※臨床心理応用実習A(心理実践実習B)(通年) ・※臨床心理実習A(心理実践実習D)(通年) ・※臨床心理実習B(通年) ・臨床心理学研究法特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・心理療法の理論と実践 ・遊戯療法の理論と実践 ・アイデンティティ論 |
| 准教授 溝 口 剛 | <ul style="list-style-type: none"> ・※臨床心理査定演習Ⅰ(心理アセスメントに関する理論と実践) ・※臨床心理査定演習Ⅱ ・※臨床心理展開実習(心理実践実習A)(通年) ・※臨床心理応用実習B(心理実践実習C)(通年) ・※臨床心理実習A(心理実践実習D)(通年) ・※臨床心理実習B(通年) ・臨床心理学研究法特論 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談からみた現代学生の理解と支援 ・青年期の心理臨床 |
| 准教授 河 野 伸 子 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達心理学特論 ・※臨床心理展開実習(心理実践実習A)(通年) ・※臨床心理応用実習B(心理実践実習C)(通年) ・※臨床心理実習A(心理実践実習D)(通年) ・※臨床心理実習B(通年) | <ul style="list-style-type: none"> ・発達臨床心理学 ・アタッチメントと精神病理 |
| 講 師 池 永 恵 美 | <ul style="list-style-type: none"> ・※臨床心理基礎実習(通年) ・※臨床心理実習B(通年) | <ul style="list-style-type: none"> ・障害児・者心理学 |
| 教 授 古 賀 精 治 | <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害教育特論 ・知的障害教育演習 ・児童心理療法特論(福祉分野に関する理論と支援の展開) ・児童心理療法演習 ・※臨床心理基礎実習(通年) ・※臨床心理実習B(通年) | <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害児の指導法 ・発達障害児の理解と支援 |
| 准教授 衛 藤 裕 司 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害児心理学特論 ・障害児心理学演習 ・自閉症心理学特論 ・自閉症心理学演習 ・LD等心理学特論 ・LD等心理学演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症児の心理 ・自閉症児の指導法 ・LD児等の心理 ・LD児等の指導法 |
| 准教授 藤 野 陽 生 | <ul style="list-style-type: none"> ・重複障害教育特論 ・重複障害教育演習 ・障害児教育指導特論 ・肢体不自由教育演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・病弱児への指導法 ・重度重複障害児の理解と実践 ・難病を抱える子ども,成人への理解と支援 |
| 教 授 佐 藤 晋 治 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達査定特論 ・障害児心理アセスメント特論 ・障害児心理アセスメント演習 ・※臨床心理査定演習Ⅰ(心理アセスメントに関する理論と実践) ・※臨床心理査定演習Ⅱ ・※臨床心理展開実習(心理実践実習A)(通年) ・※臨床心理応用実習A(心理実践実習B)(通年) ・※臨床心理実習A(心理実践実習D)(通年) ・※臨床心理実習B(通年) | <ul style="list-style-type: none"> ・知的・発達・行動障害児者の心理教育的アセスメントの理論と実践 ・知的・発達・行動障害児者の心理臨床学的支援と臨床心理学的地域援助 |
| 非常勤講師 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達社会心理学特論 | |
| 准教授 堤 隆 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開) | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期精神医学 ・抑うつ不安 |
| 非常勤講師 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語科指導法演習 | |

| 担当教員 | 授業科目 | 教員の専門研究分野又はテーマ |
|----------------|------------------------|--|
| 准教授 花坂 歩 | ・国語科指導法特論 | ・国語教育学（読書行為論） |
| 教授 平田 利文 | ・社会科指導法特論 ・社会科指導法演習 | ・社会科教育学（公民教育） |
| 教授 川 寄 道 広 | ・数学科指導法特論 | ・数学教育学 ・数学的概念の認知過程の研究 ・算数・数学における教材開発 |
| 准教授 中 川 裕 之 | ・数学科指導法演習 | ・数学教育学 ・数学的推論 ・図形の論証指導 |
| 教授 三 次 徳 二 | ・理科指導法特論 ・理科指導法演習 | ・理科教育学 ・生物・地学領域における教材開発 |
| 非常勤講師 | ・音楽科指導法特論 ・音楽科指導法演習 | |
| 准教授 藤 井 康 子 | ・美術科教育特論 ・美術科教育演習 | ・美術科教育学 ・図工・美術における教材開発 ・スペインの美術教育 |
| 教授 住 田 実 | ・保健体育科指導法演習 | ・保健科教育研究 ・保健科教材論 ・保健科授業分析 |
| 准教授 田 端 真 弓 | ・保健体育科指導法特論 | ・身体教育学 ・体育理論に関する教材開発（スポーツ史） |
| 教授 市 原 靖 士 | ・技術科指導法特論 | ・情報教育 ・教科教育方法 |
| 准教授 中 原 久 志 | ・技術科指導法特論 ・技術科指導法演習 | ・技術科教育 ・情報教育 ・木材加工 |
| 教授 財 津 庸 子 | ・家庭科指導法特論 ・家庭科指導法演習 | ・家庭科教育学 ・消費者教育 |
| 特任教授 | ・英語科指導法特論 | |
| 教授 御手洗 靖 | ・英語科指導法演習 | ・英語教育学（習得論・教材論） |
| 学校教育コース全教員 | ・教育課題実践演習 ・地域教育実践演習 | |

※臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ，臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）・Ⅱ，臨床心理査定演習Ⅰ（心理アセスメントに関する理論と実践）・Ⅱ，臨床心理基礎実習（通年），臨床心理展開実習（心理実践実習A）（通年），臨床心理応用実習A（心理実践実習B）（通年）・B（心理実践実習C）（通年），臨床心理実習A（心理実践実習D）（通年）・B（通年），の履修は，臨床心理学コース所属学生に限るものとします。

(2) 教職開発専攻

| 担当教員 | 授 業 科 目 | 教員の専門分野 |
|-----------------|---|------------------|
| 特任教授 山崎 清 男 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校マネジメントの実践研究1 ・学校マネジメントの実践研究2 ・学校危機管理の理論とプログラム開発 ・学校間連携・地域連携の実践研究 ・校内研究の理論とプログラム開発 ・大分県における教育課題の探究 | (研究者教員) 学校経営学 |
| 教 授 森 才 三 | <ul style="list-style-type: none"> ・特色あるカリキュラムづくりの理論と実践 ・授業での学習支援と指導法に関する事例分析 ・教材開発演習 ・授業分析演習 ・I C T活用実践演習 ・自立した個を育てる教育活動の実践 | (研究者教員) 教科教育学 |
| 教 授 今 村 裕 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの問題行動や規範意識に関する事例研究 ・子ども支援の実践研究 ・子どもを活かす学級経営の実践演習 ・すべての個性を活かす教育環境の構成 ・学校カウンセリング・コンサルテーションの実践研究 ・安心して成長できる学校環境づくりの探究 | (研究者教員) 学校心理学 |
| 教 授 福 本 昌 之 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの実践演習 ・学校マネジメントの実践研究1 ・学校マネジメントの実践研究2 ・学校危機管理の理論とプログラム開発 | (研究者教員) 教育経営学 |
| 教 授 竹 中 真希子 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成の理論と実践 ・授業の指導計画と教材研究の演習 ・教材開発演習 | (研究者教員) 教育方法学 |
| 准教授 雪 丸 武 彦 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員のための人権教育の理論と方法 ・教育法規の解釈・運用に関する実践研究 ・学校マネジメントの実践研究2 ・学校間連携・地域連携の実践研究 | (研究者教員) 教育行政学 |
| 准教授 大 島 崇 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員の社会的役割と自己啓発 ・学校間連携・地域連携の実践研究 ・教職員の人材育成に関する理論とプログラム開発 ・校内研究の理論とプログラム開発 | (研究者教員) 教師教育学 |
| 特任教授 別 木 達 彦 | <ul style="list-style-type: none"> ・特色あるカリキュラムづくりの理論と実践 ・教員のための人権教育の理論と方法 ・教育法規の解釈・運用に関する実践研究 ・学校マネジメントの実践研究2 ・学校間連携・地域連携の実践研究 ・教職員の人材育成に関する理論とプログラム開発 | (実務家教員) 学校経営学 |
| 教 授 有 定 裕 雅 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成の理論と実践 ・学校組織マネジメントの実践演習 ・教員の社会的役割と自己啓発 ・学校マネジメントの実践研究1 ・学校危機管理の理論とプログラム開発 ・校内研究の理論とプログラム開発 | (実務家教員) 学校経営学 |
| 特任教授 小 池 一 彦 | <ul style="list-style-type: none"> ・特色あるカリキュラムづくりの理論と実践 ・教員のための人権教育の理論と方法 ・教育法規の解釈・運用に関する実践研究 ・学校マネジメントの実践研究2 ・学校間連携・地域連携の実践研究 ・教職員の人材育成に関する理論とプログラム開発 | (実務家教員) 学校経営学 |

| 担当教員 | 授業科目 | 教員の専門分野 |
|--------------|---|------------------------|
| 准教授 古庄 一夫 | <ul style="list-style-type: none"> 子ども支援の実践研究 子どもを活かす学級経営の実践演習 すべての個性を活かす教育環境の構成 学校カウンセリング・コンサルテーションの実践研究 自立した個を育てる教育活動の実際 大分県における教育課題の探究 | (実務家教員) 特別支援教育 |
| 准教授 渡邊 早苗 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の指導計画と教材研究の演習 授業での学習支援と指導法に関する事例分析 教材開発演習 授業分析演習 自立した個を育てる教育活動の実際 | (実務家教員) 学習指導 |
| 准教授 牧 英治郎 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの問題行動や規範意識に関する事例研究 子どもを活かす学級経営の実践演習 すべての個性を活かす教育環境の構成 学校カウンセリング・コンサルテーションの実践研究 安心して成長できる学校環境づくりの探究 大分県における教育課題の探究 | (実務家教員) 生徒指導 |
| 教授 市原 靖士 | <ul style="list-style-type: none"> 授業での学習支援と指導法に関する事例分析 教材開発演習 ICT活用実践演習 | (実務家教員) 教育方法学 (ICT) |
| 教授 藤井 弘也 | <ul style="list-style-type: none"> ICT活用実践演習 | 情報教育 (ICT) |
| 教授 伊藤 安浩 | <ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成の理論と実践 | 教育課程論 |
| 教授 三次 徳二 | <ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成の理論と実践 | 教育課程論 |

問い合わせ先

出願にあたって不明な点等がある場合には、下記に照会してください。

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課

TEL 097-554-6701

この募集要項の内容は大分大学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) にも掲載されています。